

1. 巻頭言 ー拠点リーダーあいさつー



明治大学グローバル COE プログラム
「現象数理学の形成と発展」
拠点リーダー 三村 昌 泰

本プログラムの目的は「現象数理学」という新しい学問分野を提唱し、国際的に優れた教育研究を推進することにより、国際的な拠点を実現することにあります。採択されてから今年で3年目に入りました。本プログラムの柱のひとつは若手研究者の育成であることから、平成 21 年度から博士後期課程学生の育成のために、MIMS Ph.D.プログラム入学試験を実施しております。本年度も入学定員の充足率は満たされていますが、このプログラム実施の上での問題点は、MIMS は研究・知財戦略機構直属の研究機関であり、大学院組織ではないということです。つまり、研究指導は出来ても、学位授与権をもっていないことです。しかしながら、同プログラムを継承する大学院先端数理科学研究科現象数理学専攻(仮称)(収容定員:博士前期課程(30名),博士後期課程(15名))が平成 23 年度に開設されること

となりました。高度で幅広い数理科学的素養を身に付け、社会、自然、生物等に現れる複雑現象の解明及び現象と数理科学の架け橋となる「現象数理学」を学び、自立して研究活動を行い得る人材を大学院組織として育成することが出来るようになるわけです。さらに、平成 25 年度にはそれを支える学部組織として、「理系新学部」が開設される予定であります。この新学部の中心となる学科として、現象数理学科が計画されていることから、本学におけるグローバル COE プログラムの人材育成の具体的な構想の実現に向け着実に歩み出しました。まことに嬉しい限りであります。

一方、それを支える教員体制も徐々に充実してきました。本年度は特任講師2名及び客員教授2名(外国人1名)を雇用することが出来、さらに、平成 23 年度から専任教授1名の採用計画が決定されていることから、将来に向けて現象数理学の教育研究は大きく展開することが期待出来るでしょう。

この他にも、「現象数理学」という新しい学問領域名の理解と普及を深めることも重要です。そのために、昨年からは、研究活動の内容を多様なメディアを通して紹介する努力も行ってきました。本プログラムの全体像及び個別の研究成果は、「アエラ」、「ニュートン」、「子供の科学」などの商業雑誌、「朝日新聞」、「毎日新聞」、「日本経済新聞」、「読売新聞」などの日刊紙、「爆笑問題」、「報道ステーション」、「世界一受けたい授業」などのテレビ番組など、多様なメディアでも注目されて取り上げられており、さらに、若手の研究内容を紹介する DVD の制作、サイエンスライターによるインタビュー記事を豊富に掲載した Meiji GCOE News Letter の発行なども、この目的のために行っています。このように、現象数理学の一端を広く一般の人に発信する機会も多くなってきていると思っています。

このような活動の中で、7月に中間評価のヒアリングが行なわれ、本学のこれまでの活動に対してかなり良い評価を頂きました。

最後になりましたが、採択されてからこれまで皆様から頂いたご支援に対して厚くお礼を申し上げます。本当に有り難うございました。今後ともどうかよろしくお願い致します。